

# サリドマイド事件関係資料を公開する 一薬害の記録、継承の意義をめぐって

研究会の日程を下記に変更します。

**2021年3月16日（火）14:00-15:30**

形態 zoom ミーティング

申込 環境アーカイブズ HP イベント告知ページより

（申込者に zoom のリンクを送ります）

[https://k-archives.ws.hosei.ac.jp/event\\_detail/20201222/](https://k-archives.ws.hosei.ac.jp/event_detail/20201222/)

連絡先 法政大学大原社会問題研究所 環境アーカイブズ

電話：042-783-2098（平日 9:00-16:30、12/26-1/6 休室）

メール：HP のお問い合わせ欄より

<https://k-archives.ws.hosei.ac.jp/contact/>

主催 法政大学大原社会問題研究所 環境アーカイブズ

環境・市民活動アーカイブズ資料整理研究会

報告

「第3次寄贈分 サリドマイド事件関係資料の概要」

長谷川達朗（資料整理担当 環境アーカイブズ RA）

「サリドマイド事件関係資料の来歴と継承への期待」

川俣修壽（資料寄贈者、ジャーナリスト）

司会 山本唯人（法政大学大原社会問題研究所准教授）

趣旨

法政大学大原社会問題研究所 環境アーカイブズでは、「川俣修壽・サリドマイド事件関係資料」を所蔵しています。2021年1月、第3次寄贈分の資料（資料群番号0051）を追加公開するにあたり、「サリドマイド事件」の記録と、その継承の意義をめぐる公開研究会を開催します。

サリドマイド事件とは、サリドマイドを含有する睡眠薬・鎮静剤を妊婦が服用したことで、胎児の四肢、内臓、耳などの成長に影響を与えた薬害と、それをきっかけに起きた様々な問題を指します。日本では、1960年代初頭から被害者の一部が原告となり、国と発売元の企業を提訴し、1974年に和解が成立しました。

薬害事件の背景には、営業の一環として薬品を開発・販売する企業と、安全性を守る国、専門家の役割、それを取りまく市民社会の動きなどがあります。多くの被害者を出し、高度成長期の日本社会に衝撃を与えたサリドマイド事件をひもとくことは、コロナ流行の下、医療・衛生における安全とは何かを問いかけられるわたしたちに、貴重なヒントを与えてくれるものでもあるでしょう。

ご参加をお待ちしています。